

第2期計画（令和2年3月策定）

現状と課題

- 【アンケート結果から】
- 子育てについて気軽に相談できる人「配偶者」83.3%「父母・祖父母」の割合 77.3%
- 日頃、日常的に子どもを見てもらえる親族・知人がいるか「いずれもない」11.6%
- 【国の動向】
- （ライフステージを通した事項）
- 子育て世代包括支援センター（妊娠期から子育て期に渡る様々なニーズに対する総合的相談支援）の設置（R2）（学童期）
- 「新・放課後子ども総合プラン」（放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的実施）（H30）



（基本目標Ⅰ）結婚から妊娠・出産・育児までの切れ目ない、包括的な支援体制の構築

第2期計画（令和2年3月策定）

現状と課題

- 【アンケート結果から】
- 子育ての悩みについて公共の機関へ相談をする割合が低い
- 「子ども発達支援センター」7.1%「市役所や保健センター」6.1%
- 「子育て世代包括支援センター」2.1%
- 子育てについて相談したいこと 子どもの健康づくりへの関心が高い
- 「子どもの病気や健康」36.7%「子どもの食生活」36%
- 【市の状況】
- 育児不安を持つ母親の増加
- 子どもと親が心豊かに育つうえで、健康づくりは重要な課題



（基本目標Ⅱ）親と子の心と体の健康づくり

■アンケート調査（令和6年3月）

- 子育てしやすいまちづくりのために必要な取組み「乳幼児のあそび場の整備」「子どもを事故・犯罪から守るための施策」3割
- 「小児医療体制の充実」3割、「子育てへの経済的支援」4割強
- 近江八幡市は子育てしやすい環境であるか「思わない」就学前 36.5% 小学生児童 38%
- 子育てについて相談したいこと「育児の不安や悩み」54.1%

■子ども・子育て会議（令和6年5月31日）

- こども家庭センターにおける母子保健と児童福祉の包括的な支援体制の構築
- 親が笑顔であれば子どもも笑顔
- 子どもを産めば産むほどしんどい

■幹事会（令和6年6月13日）

- 【現状・課題について】
- 若年層（高校生等）の望まない妊娠→相談先がない現状がある
- 子育ての悩みを聞いてくれる場は必要とされている
- 同じ立場の人の集まりを求めているのではないか
- 助けてほしい時に助けてもらえることが必要
- 【基本目標について】
- 「結婚から」という表現は不要
- 基本目標1の範囲が広すぎる
- 「地域」に関する課題感や現状が多く意見としてあったため現行の目標の表現と乖離がある

第3期計画（案）＝これまでの議論を踏まえて整理

現状と課題

- 出産や育児に関する不安の高まり・子どもを産めば産むほどしんどいという負担感の増加・子育ての悩みを聞いてくれる場が必要
- 子どもが産まれる前から、乳幼児期、子育て期までの支援を継続的に切れ目なく実施することが必要



（基本目標）こどもを安心して産み育てられる環境をつくる



第 2 期計画（令和 2 年 3 月策定）

現状と課題

- 【アンケート結果から】
- フルタイムで働く母親の割合 35.8%
- パートタイム就労のうち、45%がフルタイムへの転換希望あり
- 【市の状況】
- 多種多様な保育の利用が必要とされている
- 子どもを取り巻く環境が複雑化、多様化
- いじめやひきこもり問題



（基本目標Ⅲ）子どもが健やかに成長するための教育・保育環境の整備

■アンケート調査（令和 6 年 3 月）

- フルタイムで働く母親の割合 就学前保護者48.4%
- 幸せに生活するために大切だと思うこと
- 「自分の自由になる時間や疲れた時に休む時間を持つ」 29.9%（H30）→54.3%（R5）

■子ども・子育て会議（令和 6 年 5 月 3 1 日）

- 保育園や認定こども園の待機児童の発生について解消をする必要がある
- 核家族における家庭教育の限界

■幹事会（令和 6 年 6 月 1 3 日）

- 【現状・課題について】
- 共働き世帯は忙しくて子どもに教えている時間がない
- こどもの預け先が分かれなようにする→保育環境の改善
- 現場（保育士、教師）をサポートする体制づくりが必要
- 親育ての視点も必要
- 【基本目標について】
- 子どもの健やかな成長を第一にした保育・教育が必要
- 基本目標は現行のままで良いのではないか
- 多様性を認め合いながら家庭教育と教育・保育のつながり

第 3 期計画（案）＝これまでの議論を踏まえて整理

現状と課題

- 共働き世帯の増加に伴い、保育ニーズが高まっている
- 子どもの健やかな成長を第一とした保育・教育が必要められている
- 多様な保育ニーズへの対応が必要
- 保育を担う人材の確保



（基本目標）すべてのこどもが健やかに成長できる教育・保育環境をつくる

第 2 期計画（令和 2 年 3 月策定）

現状と課題

- 【アンケート結果から】
- 近江八幡市は子育てしやすい環境であるかの「思わない」 就学前 59%
- 子育てしやすいまちづくりのために必要な取組み
「乳幼児のあそび場の整備」「子どもを事故・犯罪から守るための施策」 3割
- 【国の動向】
- 登下校防犯プラン（地域における連携の強化や多様な見守りの活性化）（H30）



（基本目標Ⅳ）子どもを安全に、安心して育てられるまちづくり

第 2 期計画（令和 2 年 3 月策定）

現状と課題

- 【アンケート結果から】
- 育児休業の取得をしたか 就学前保護者 父親 3.2% 母親 40.9%
- 母親の就労状況（フルタイム）就学前保護者35.8%
- 【国の動向】
- ワークライフバランスの実現
- 育児休業、介護休業等育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律（H29）



（基本目標Ⅴ）仕事と生活の調和の支援

■アンケート調査（令和 6 年 3 月）

- 近江八幡市は子育てしやすい環境であるか「思わない」
就学前 36.5% 小学生児童 38%
- 地域全体で見守られている、応援されていると感じるか「思わない」 就学前 42%
- 育児休業の取得をしたか 就学前保護者 父親 15.7% 母親 59.1%
フルタイムで働く母親の割合 就学前保護者48.4%

■子ども・子育て会議（令和 6 年 5 月 3 1 日）

- 地域社会全体で子育てをする
- 各家庭が忙しくて子育てを自分事できない
- 仕事と子育てに追われ「楽しむ」余裕がない

■幹事会（令和 6 年 6 月 1 3 日）

- 【現状・課題について】
- 多様な居場所づくりが必要
- こどもの居場所→親・大人のつながりの場
- 持続可能な地域の見守りが必要
- 【基本目標について】
- 保護者が全て受け身にならない視点も必要
- もう少し具体的な別の表現にした方が良い

第 3 期計画（案） = これまでの議論を踏まえて整理

現状と課題

- 核家族化・共働き世帯の増加 ・地域との繋がりの希薄化 ・多様な居場所が求められている
- 地域社会全体で子育てを支える意識や環境が必要 ・仕事と子育てを両立できる職場環境が整っていない
- 家庭が忙しくて子育てを楽しむ余裕がない



（基本目標）地域社会全体で子育てを支え、安心して子育てができるまちをつくる

■幹事会（令和 6 年 6 月 1 3 日）

- 【現状と課題について】
- 男性育休が広がっているが、休むと職場に負担かかる現実
→社会として受け皿ととのっていない
- 仕事優先の男性に子育ての重要性を認識してもらう
- 小さいころから男性が育児や育児をするのは当たり前という「場づくり」が必要
- 【基本目標について】
- 仕事と子育ての両立支援
- 1つの目標としてではなく他の目標として盛り込んでどうか

第2期計画（令和2年3月策定）

現状と課題

- 【市の状況】
- 児童虐待の相談件数の増加
- 【国の動向】
- 改正児童虐待防止法（親の子どもへの体罰禁止、児童相談所の体制強化）
- 子どもの貧困（母子家庭における経済困窮）



（基本目標Ⅵ）きめ細やかな関わりを必要とする子ども・家庭への支援

■アンケート調査（令和6年3月）

- 家族のお世話をしている子どもの数 小学5年生21.9% 中学2年生14.5%
- 支援制度の利用「就学援助」を利用しているか 「している」6.5% （県平均12.1%）
- おむつの購入が難しい、学習環境が整わない、要受診の検診が受けられない家庭の存在

■子ども・子育て会議（令和6年5月31日）

- 支援が必要な児童、学校に通いにくい児童の増加
- 多様性、外国籍児童のコミュニケーション
- 特別支援の児童、配慮が必要な児童の増加
- ヤングケアラー支援が必要

■幹事会（令和6年6月13日）

- 【現状・課題について】
- 外国籍の児童への支援は、親への支援も必要
- 不登校、特別支援の児童の増加
- 【基本目標について】
- 子どもの貧困は別目標とした方が良い
- 虐待は命に係わるので、他の施策と切り分けてはどうか
- 不登校、特別支援、ヤングケアラー、外国人それぞれ異なるので分けて対応必要
- ヤングケアラーを今まで以上に上げることは必要
- 重要な視点なので基本目標の上位にあった方が良い

第3期計画（案）＝これまでの議論を踏まえて整理

現状と課題

- 学校・保育現場における特別な支援や配慮が必要な児童の増加
- 外国籍の児童の増加に伴うコミュニケーションの課題の顕在化
- 学校に通いにくい児童、不登校の児童の増加



（基本目標）きめ細やかな関わりを必要とする子どもや家庭を支援する

第3期計画（案）＝これまでの議論を踏まえて整理

現状と課題

- 虐待相談件数の増加 ・ヤングケアラーの存在
- 日々の食事に困る子どもや学習の機会を十分に得ることができない子どもがいる
- 貧困の状況にある子どもが社会的に孤立しないための支援が必要
- ひとり親家庭などへの支援



（基本目標）子どもを貧困や児童虐待から守る